

2012年5月28日



## 成田国際空港株式会社とチャンギ空港グループが姉妹空港協定に調印

— 協力関係の強化と情報交換の促進 —

当社とチャンギ空港グループ(CAG)は、航空輸送における2大ハブ空港の協力関係を強化する覚書に調印いたしました。

当社の森中小三郎代表取締役社長とCAGのLee Seow Hiang(リー・ショー・ヒアン)最高経営責任者(CEO)は、先週5月23日、第7回ACI(国際空港評議会)アジア太平洋地域総会が開催されたシンガポールにおいて、本覚書に調印いたしました。

本覚書は、世界の航空ネットワークの構築や拡大、ならびに両空港を利用するお客様へ高品質なサービスの提供を目的として、両空港の戦略的協力関係の強化が改めて確認されたものです。

本覚書の締結に伴い、空港管理者である両組織は、空港の運用や運営手法に関する情報交換が一層促進されることとなります。また、両空港がこれまで積み上げてきた経験から得たノウハウ、ならびに両空港間のネットワーク促進を目的とした共同プロジェクトの可能性について、意見交換や情報共有を行う定例会議が開催されることとなります。

当社とCAGは、これまでもお互いの空港業務について理解を深めるべく、定期的に相互に社員を派遣し、会議を実施してまいりました。今般の覚書調印は、長きにわたる両空港間の友好関係と有益な協力関係が実を結んだものです。この協力関係の強化は、特に成田ーチャンギ空港間の旺盛な航空輸送や、両空港が属する地域以外の主要な拠点空港との協力において重要なものとなります。

## チャンギ空港グループ(CAG)について

チャンギ空港グループ ([www.changiairportgroup.com](http://www.changiairportgroup.com)) は、2009年6月16日に発足し、同7月1日にシンガポール・チャンギ空港における法人組織となりました。CAGは、チャンギ空港を運営する会社組織として、空港の運用・マネジメント、航空拠点としての発展、商業活動、空港の救急サービスにおいて重要な機能を果たしています。また同グループは、その子会社であるチャンギ空港インターナショナルを通じて、チャンギ空港を国際的に成功させるため、海外空港への投資や運営を行っています。

チャンギ空港は、1981年の開港以来、世界で最も賞賛される空港として、400を超える賞を獲得してまいりました。そして世界中からお越しになるお客様のために、4つの旅客ターミナルビルに360の小売店と130の飲食店が入居しています。2011年には46百万人の旅客がチャンギ空港を利用し、年間取扱旅客数としてこれまでの最高を記録いたしました。現在、同空港は、100社の航空会社により世界の220都市(約60の国と地域)と結ばれており、約100秒に一回のペースで航空機が離着陸しています。

## 成田国際空港株式会社(NAA)について

成田国際空港株式会社 ([www.naa.jp](http://www.naa.jp)) は、その前身である新東京国際空港公団の業務を継承する形で、2004年4月、政府全額出資の特殊会社として設立されました。

成田空港は、1978年5月に開港し、現在、73社の航空会社により世界の93都市(37の国と地域)と結ばれています。2011年には世界を代表する国際拠点空港として、約28,000千人のお客様が同空港を利用したほか、その取扱貨物量は約1,900千トンを誇っています。日本政府が進めるオープン・スカイと並行して、成田空港は2013年3月までに年間の空港容量を270,000回、更には最速で2014年度中に300,000回にまで拡大させる予定であり、国際・国内を問わず、航空ネットワークの拡大に取り組んでいます。また、今後はマルチ・ファンクション・エアポートとして、LCCやビジネスジェット等、多様化する航空会社や旅客のニーズに的確に応え、世界のお客様から選ばれる空港を目指してまいります。